

経営比較分析表（令和2年度決算）

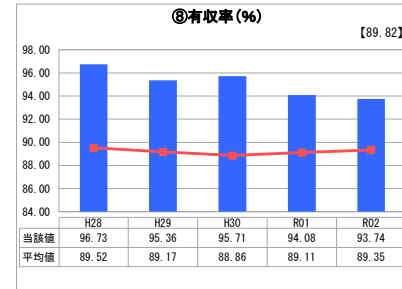
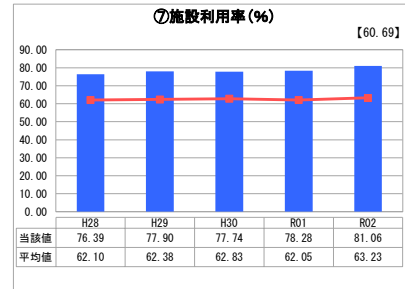
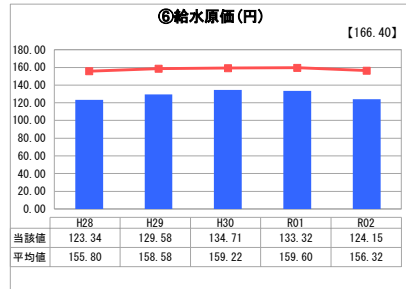
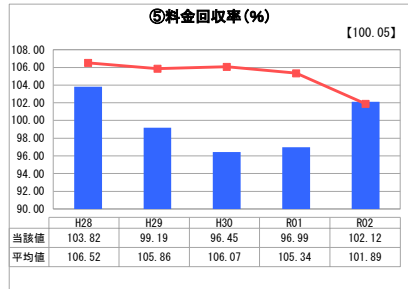
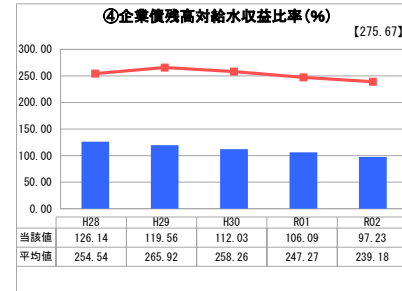
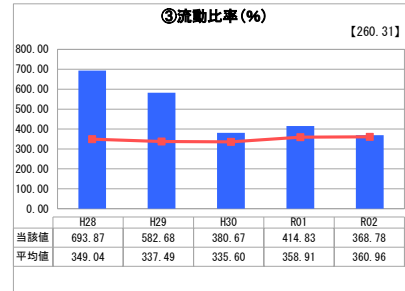
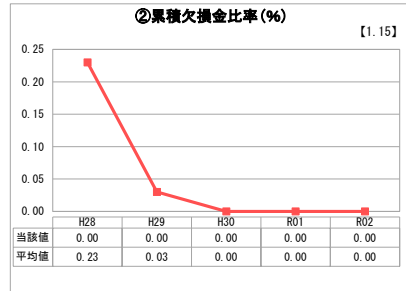
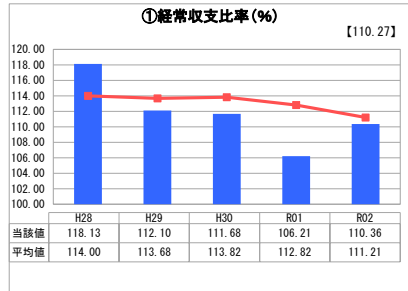
神奈川県 座間市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A3	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり客産料金(円)	
-	87.52	99.95	2,248	

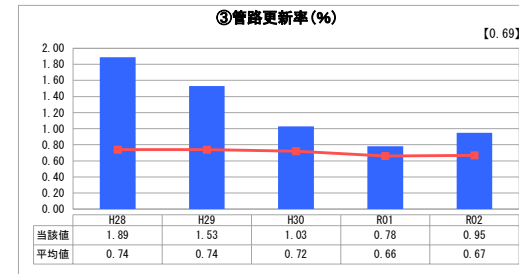
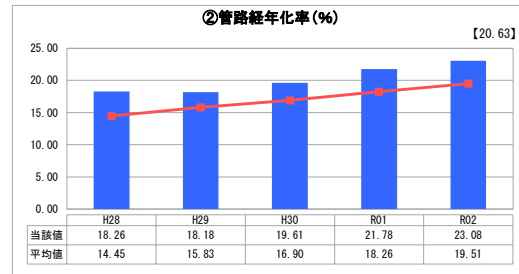
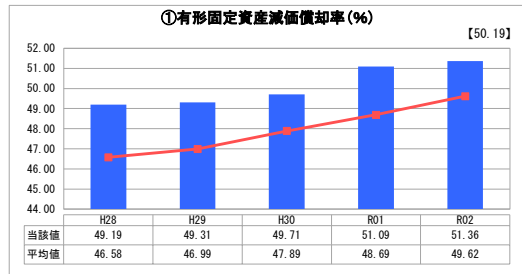
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
131,845	17.57	7,503.98
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
131,693	17.02	7,737.54

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

昨年度と比べ、料金回収率が平均値を若干上回り、現状では給水に係る経費分を料金収入で賄えている状況となりました。さらに、一般会計からの繰入金、補助金、水道利用加入金等の収入があるため、経常収支比率は安定的に100%を上回っており、経営の健全性については問題ありません。また、給水原価は平均値を下回っており、安価な水道料金を設定できていることから、効率的な事業運営を行っていると言えます。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率、管路経年化率ともに平均値を上回り、さらに年々増加傾向にあることから、施設の更新、管路の長寿命化などの必要性が高まっています。一方、平成24年度以降、積極的な管路の更新により管路更新率を高い水準で維持することができています。

全体総括

本市の水道事業は、安定的に経常収支比率が100%を上回っており、現状では健全な事業運営を行っておりますが、今後、給水人口の減少による水需要の減少が見込まれる一方、老朽化した施設の更新、災害対策の一環としての耐震化の必要性に迫られており、さらなる費用や借入が必要となると予想されます。事業の広域化や民間活力の導入等も視野にいれながら、さらなる事業運営の合理化・効率化が必要です。